

第217回くらしの植物苑観察会 2017年4月29日(土)

－ゲノムから見たサクラソウ園芸品種の歴史－

大澤 良(筑波大学生命環系 教授)

民俗文化財としての園芸品種

サクラソウ、ツツジ、ハナショウブなどに代表される古典園芸植物は、わが国が世界に誇れる文化財です。文化財保護法においては、天然記念物指定基準「植物」に基づいて植物の個体・自生地・群落、原始林、並木等が天然記念物として保護されていますが、その多くは野生個体もしくは個体群、あるいは寺社などに植えられた野生由来個体です。しかし、人の美意識に基づいて育成された植物群である園芸品種群は天然記念物の対象となってきませんでした。文化財が人類の文化的活動によって生み出された有形・無形の文化的所産であり、学術的価値の高いものであるならば、古来より日本人によって時代ごとの思潮や美意識により育成された園芸品種群はまさに文化的遺産、民俗文化財といえるのではないのでしょうか。

サクラソウ園芸品種の歴史

サクラソウ園芸品種の育種過程の詳細は明らかになっていません。栽培植物の歴史を明らかにするためには、いつ、どこで、どのようにして、どのような祖先種から栽培種が出来上がり、なぜ現在の特徴を持つに至ったか示す必要があります。特にサクラソウは観賞用の植物であり、その変異には人の嗜好が反映されやすいと考えられます。

サクラソウに関しては、柳沢信鴻(やなぎさわ のぶとき)の記した『宴遊日記』(安永10年、1781年)には「土堤の下は野新田に続きたる広野、桜草所々に開き、・・・」とあり、鶴川鹿文が残した『華実年浪草(かじつとしなみぐさ)』(天明2年、1782年)には「……今豊州豊島村ノ近野多ク生ス 年々種子自コボレテ新花ヲ出ス 凡ソ三百種ニ過タリ 好事ノ者甚タ愛玩ス」とあります。自生地の群落中のたくさんの変異個体を掘りとり園芸品種として楽しんでいましたようです。しかし、その約50年後に出版された『桜草作伝法』には「好事の輩は遠路をいとはず野原に足をはこび中には替り色花もあれかしとたつねしに一通りの花のみにて稀に白花を得しとなり…」と記されており、桜草の園芸化の初期には、山野の野生集団からを変わりものを採集したが、たちまちその変異個体は掘りつくされ、その後、より多くの人々に試みられたのは、実蒔培養による変わりものの創出であったと推測できます。私たちは、これまでにサクラソウ園芸品種の起源についてDNA解析を利用して調査してきました。

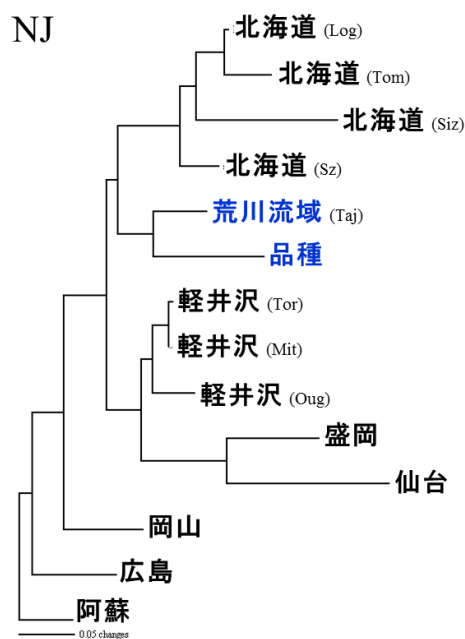
DNAによる園芸品種の由来推定

サクラソウ園芸品種の遺伝子型を調査した結果、サクラソウ園芸品種の起源となった集団は、文献に示されていた荒川流域の自生地の野生であることが裏付けられました。しかし、「大須磨」のように関東の野生集団に由来するとは考えられない品種の存在も明らかになっており、すべての園芸種が関東周辺の野生集団に由来するのではないようです。280品種の園芸品種間の遺伝的関係を見てみると、野生種の形態に比較的近い群と園芸品種特有な花形態の群、それらが混合された群にわけられました。園芸品種特有な群は限られた系統によ

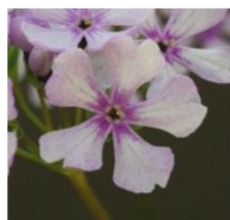
でもたらされた可能性があります。

荒川流域の野生集団の現状について見てみると、その多くがすでに絶滅しています。江戸の町に最も近かった尾久の原は、江戸時代にはすでに乱獲のため衰退・絶滅したことが『江戸名所花暦』(文政10年1827年)に記されています。また、その他の都内の自生地も昭和初期には全て野生集団は絶滅しました。現在残っているのはわずか2箇所であり、そのうち、浦和の田島が原(埼玉県さいたま市)は大正9年に天然記念物、昭和27年に特別天然記念物に指定され残ってきた場所です。文化を生み出す源という意味からも野生集団の保全が望まれます

中尾(2005)は、サクラソウの品種改良で育成された、垂れ咲きの花序や抱え咲き弁、玉咲き弁というような特徴は、欧米人の目では単に劣等な形質とみられただけであり、サクラソウは世界的な園芸品種とはならなかったと指摘しています。しかし、一方で、これらの形状に日本人が美を見出したことは、西洋人には理解できない美学が日本文化に存在することを示しているとも述べています。中尾の指摘した「江戸の美」を科学の目で解析することはできませんが、色素や花弁形状の花容の変異を定量的にとらえ、ゲノム解析との結果と結びつければ、サクラソウの品種発達史を品種レベルで追跡できるようになると考えています。



品種は荒川流域の野生集団と類似



'蛇の目傘'
(じゃのめがさ)



'駅路の鈴'
(えきろのすず)



'臥竜梅'
(がりようばい)

園芸化初期の花には野生の花形に近い品種が多いように思える



次回予告 第218回くらしの植物苑観察会 2017年5月27日(土)

「梅雨の植物文化誌」 辻 誠一郎(東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要